

## 学校にミストを設置するよう求めました。

温暖化により夏期の気温が上昇し、小中学校の空調を整備するよう要望が増えています。しかしながら市としては導入コストや環境面の課題が多いとしてきました。そこで空調設備よりも導入コストやランニングコストが安価で環境にもやさしいミストの設置を求めました。

Q:学校の校舎は比較的風通しも良いため夏期に室温が高くなる教室も最上階や南側の校舎に限定される。校舎自体を打ち水するようなミストを設置できれば室温を2~3℃下げられるのではないかと。またグラウンドに散水設備を設置すれば砂の飛散も抑制でき、グラウンドの温度も下げることになる。試験的に導入してみてもどうか。

A:モデル校を決めて試験的に導入できるよう検討する。

## 公園利用の住み分けを

公園からボールが出て近隣住民とトラブルになることが後を絶たない。これを解消すべく公園利用者の住み分けをすすめるためのルールづくりを提案した。公園の中をゾーニングしての住み分け、時間帯での住み分けなど。フェンスや植栽などの整備とあわせてのルールづくりをするよう提案しました。

## デジタルサイネージの導入を

観光客やイオン、イケアの来場者に向けたリニモ駅案内、市役所来庁者案内、緊急車両の交差点進入警告や渋滞情報などあらゆる情報を電子掲示板デジタルサイネージを活用するよう提案しました。



ピーディーシー株式会社 HP より抜粋

みなさんの抱える日々の暮らしの中での**疑問やお願い、困り事**を聞かせて下さい。

発行者: **佐野 尚人** 〒480-1114  
愛知県長久手市長配1丁目707番地の2  
✉ [nagakute@sano-naoto.com](mailto:nagakute@sano-naoto.com) ☎ 0561-61-2085

NAOTALK 最新情報を随時更新中!!  
HP [www.sano-naoto.com](http://www.sano-naoto.com)  
Twitter @nagakutenaoitalk

※この活動報告は、政務活動費の一部を使用しています。

新たな長久手のために



# NAOTALK

長久手市議会議員 **佐野尚人** 議会活動報告

平成28年度役職

くらし建設常任委員会委員長 / 議会運営委員会 / 愛知中部水道企業団議会監査委員

## 共生ステーションにエコハウスを併設するよう求めました。

長久手イオンが開業し週末には激しい渋滞が起きています。週末にエコハウスを利用する市民も多いのですが渋滞が激しくエコハウスへの出入りができなくなってしまう。

共生ステーションで資源ごみなどの回収を行うようにすれば南部や西部地域の市民も渋滞を避けて資源ごみを持ち込む事ができます。また今後整備する予定の共生ステーションでも回収資源を活用したリサイクルマーケットを地域の皆さんに運営してもらえば、リユースがより活性化するのではないかと考えます。



## 共生ステーションはすべての小学校校区に整備できるのか？



H28年度の9月議会、12月議会で共生ステーションの整備について市の方針を質問しました。吉田市長の発案で始まった共生ステーション事業は当初一箇所1千万円の予算で始まった事業でした

が最初の西小校区から予算をはるかに超え8倍以上の事業に膨れ上がりました。続いて整備している市が洞校区でも既存の元区画整理組合事務所の改装費だけで8千万円を超え、周辺整備を合わせると1億円を超える事業になっています。しかしながら共生ステーション事業は総合計画にも示されていない事業のためその財源はすべて一般会計からの繰り出しになります。北小・南小校区ではワークショップを同じ時期に行い住民の意向が示され、北小校区では場所が決まり建物の設計への準備が進められています。しかしながら南小学校校区では場所の選定すら進んでいません。平成29年度に設計が進められるよう場所の選定を今年度中に行うよう求めました。

Q:共生ステーション事業は住民の声から始まった事業ではなく、市長の発案で始まった事業であるにもかかわらず住民のワークショップは終わり提案がまとめられただけで整備がまったく進んでいない校区もある。  
このような地域格差を速やかに是正すべく整備を急がりたい。

A:平成29,30年度にかけて整備をするようすすめている。

## 児童福祉法が改正され市の責任が大きくなります

児童福祉法が改正されこれまで児童相談所が対応していた虐待や貧困家庭の児童のフォローを市が担うことが増えてきます。連日報道にあるように行政がかかわっていながら児童が命を落としてしまうことのないようにするため、市の体制を強化するよう要望しました。

## 外部講師を採用し、小中学校の部活動の種目を増やしてほしい

全国大会に出場するなど活躍も目覚ましいジュニアバトミントンクラブの皆さんから要望いただき、小中学校の部活動種目の拡充を求めました。教員の多忙を理由に部活動の拡充をできないとする教育委員会ですが、それならば「外部の講師をお願いしてはどうか？」と提案すれば、部活動は教育の一環なので外部講師も難しいとします。このままでは市のスポーツ振興と部活動はまったく連携のないままです。せっかく好成績を積み上げても日常的なフォローはできません。中学校保護者の方からは部活動指導に対するご不満も多く寄せられ、担当指導室にも改善を求めています。

